



日立一高ラグビー部OB会 会報

<http://www.ichiko-rugby-obc.com>

○ 近況報告 — 改善点と今後の要望

OB会会長 吉田 尚一

OB会員の皆様には常日頃から様々なご支援・ご協力をいただき誠にありがたく、深く感謝申し上げます。

OB会活動内容や現役の部活動については、OB会会報、ホームページ等で紹介されていますので、ここではまず、今年度に入ってから特に改善された点を紹介いたします。



(改善点)

- 1 照沼先生が今春赴任し、橋本先生と同期（S60年卒OB会員）の二人体制となり、監督・指導体制が確立、充実された。
- 2 OB集合日（月2回）の設定、夏合宿におけるOBの集結により指導面でOBのバックアップ体制が確立されてきた。・・・月2回のOB集合日には延べ10数人のOBがグラウンドに来てくれ、菅平合宿には吉野氏（元全日本）、益子氏（元早稲田大監督）、照沼氏〔オーストラリアコーチング有資格者〕はじめ10人位が泊りがけで指導に来てくれた。
- 3 父母の会が結成され、父母のラグビーに対する理解度が深まり、菅平合宿に、練習試合に、公式試合に10～20人が応援に出かけて来てくれ、差し入れをしてくれている。

以上のように日立一高ラグビー部の指導・応援の環境は整いつつあります。

次に、目標は、現役チームが強くなる事で、強くするための私なりの要望・課題を挙げさせていただきます。

(要望事項)

- 1 新入部員の確保・・・毎年10人以上
 - 2 3年生の全国大会までの現役続行・・・3年生が春の大会を最後に部活動を終えてしまう。大学入試の勉強とはいえ、1年生は3年生と一緒に練習する期間は1～2か月しかなく、3年生のプレイを見て覚えることがほとんどない。これでは良き伝統を継承する事は大変難しい。
 - 3 厳しい、激しい練習の実行・・・練習時間は短くても良い、走りこみ中心の練習をし、スピード、スタミナの体得を目指すように。
 - 4 精神面の鍛錬・・・部員全員が「やるべきことをきちんとやれる、できる」ように“忍耐と努力”の精神を鍛える事。
 - 5 チームデフェンスの確立
 - 1) ポジション毎の責任範囲とカバーリングの徹底
 - 2) 果敢に前に出て、相手との間合いを詰め、プレッシャーを与える
 - 3) 失敗を恐れず、トップスピードでタックルに入る（思いきりの良いプレイ）
 - 4) 集散を早くし、相手より早くモール、ラックポイントに到達
 - 5) TBもモール・ラックへ参加し、相手にボールを出させない⇒ターン・オーバー、ジャックルにつながる
- この1)～5)は「やるべきことはきちんとやれる、できる」ことであり、出来なければ練習を積み重ねる事で出来るようにならなければならない。“言うは易し、行なうは難し”練習あるのみ。
- 6 目標の設定

来春の関東大会出場を目指し、現役、監督、父母、OBが一体となり目標に向かって何が何でも成し遂げるようにする。

全国大会県予選も準決勝で敗れてしまいましたが、新チームの初陣で、むしろ善戦したと言えます。

現役、先生は12～1月の新人戦に向かって、上記要望を取り入れ、練習に励んで頂きたいと思います。

OB会も今迄にも増して応援して参りますので会員の皆様にはご支援・ご協力のほど宜しくお願いいたします。

○ 平成20年度 学年幹事会(定例総会)開催報告

前年度の事業報告、本年度の事業計画等を審議する学年幹事会が6月28日(土)に出席40人(委任状27人)で開催され、近藤幹事長から議案の説明があり、原案通り承認されました。

〔会議の前に学年幹事の見直しを行ったため、従来より多くの方が出席して下さいました〕



1. 平成19年度活動報告

1-1 重点方針

1) “現役の支援強化により平成20年度までにCクラスからAクラスへ”

先生、生徒の努力により、新入部員の確保が順調に出来(一昨年10人、昨年14人、今年10人)、やっと本格的な練習が出来る体制が出来た。一方、OB会の指導体制も日常、休日、合宿に徐々に整い、父母の会も各試合に差し入れ持参で多くの方が応援に来るようになって来た。

その結果、新人戦、関東大会、県総体とベスト8に入り、実力県内5~6位(準Aクラス)になる事が出来た。

2) 財政の健全化—当年度活動予算に見合う会費の徴集促進

学年幹事を通じ会費の徴収促進を図ったが、全体で530人中101人(19%)、目標額600千円に対し、455千円(76%)と大幅な未達成となった。

1-2 活動報告

計画した実施項目は予定通り実行する事が出来た。

特に、父母の会が結成され、会費を徴収し、いろいろな場面で現役に差し入れがあり、各試合に多くの父母が応援に来るようになった。

1-3 会計報告

	予算〔千円〕	実算〔千円〕	増減〔千円〕
前年繰越	2,209	2,209	0
当年収入	600	458	-142
当年支出	900	1,011	+111
当年繰越	1,909	1,656	-253

当年度の会費徴収が大幅な未達の為、収入が少なく、その結果、当年度繰越金が予定より253千円減少してしまっ

た。“出(いずる)を制して、入(い)るを図る”ではなく“入るを図ることにつくる”が今後の課題である。

1-4 OB会ホームページの利用状況

昨年8月に開設し、月当たり約1千件の利用があり、好評を博している。

管理人の木下事務局長には、今後もタイムリーな記事の掲載をお願いします。

2. 平成20年度 事業計画

平成18年の創部60周年を再生元年として、今年で3年目を迎えてOB会基礎作りの仕上げの年と位置付け、精力的に取り組む事にする。

2-1 重点方針

仕上げの年につき前年度を踏襲することにする。

1) 現役の支援強化でベスト8以上確保

2) 当年度支出に見合う収入の確保で財政の健全化

2-2 財政予算

	19年度実績〔千円〕	20年度予算〔千円〕
前年繰越	2,209	1,656
当年度収入	458(会費のみ)	800(会費500千円+広告収入300千円)
当年度支出	1,011	840(会議費、OB会報、差し入れ、合宿援助、行事援助ほか)
当年度繰越	1,656	1,616

(問題点と対応策)

当年度収入を確保することが最大の課題である。

対応策として会員からの会費納入の働きかけを機会あるごとに地道に、根気よく行っていく。

一方、今年度からOB会員の中のオーナーに働きかけ、OB会報に広告を掲載することで寄付金を募ることにする。

2-3 重点実施項目

1) OB会費の徴収促進・・・500千円

2) 広告収入の確保・・・300千円

- 3) 新入部員の確保・・・10人以上
- 4) 父母の会との親密な交流・・・お互いの総会、役員会への参加
- 5) ミニ合宿の定期化・・・各大会前に実施するようにする。
- 6) OB集合日の内容強化・・・質〔計画的に〕・量〔指導者の員数増〕を向上する。
- 7) 応援者の増・・・日常練習、練習試合、公式試合へ（OB会員、父母会員とも）

3. 役員改選

関氏〔57年・35回卒〕退任、他16人は任期延長する。

4. 学年幹事の見直し・承認

従前の74人を見直し、10人が退任し、20人が新任、64人は継続することで総員84人が承認された。

（OB会幹事長 近藤雅年）

○ 日立一高ラグビー部 新任顧問ごあいさつ

今年4月、ラグビー部OBで、橋本監督と同期の照沼芳彦さんが日立一高に理科の教諭として着任。ラグビー部の顧問に就任しました。最初は「部員を学業面から支援していく」と、やや控え目でしたが、徐々に熱い血が騒ぎ出し、今では時間の許す限りグラウンドに出て、率先垂範して指導に当たってくれています。

「就任のごあいさつ」 照沼芳彦（昭和60年度・第38回卒）

日立一高OBの皆様には、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

皆様には現役のときよりお世話になり、本当にありがとうございました。またこのような形で日立一高に赴任し、同期の橋本先生とともにラグビー部顧問となり、皆様とお会いできたことをとてもうれしく感じています。

赴任して最初感じたことは、学校もラグビー部も様変わりをしたということです。

今や日立一高は、県下有数の進学校として国公立大学の進学者の数を争う学校であり、ラグビー部員にとっても例外なく、結果が求められています。そうした中でも、私たちの目指す聖地は、昔と変わりにくく時間が流れているようです。

時代が求めるものは、部員たちにとってとても厳しいものです。しかし、まだまだ未熟ではありますが、部員たちは現実を受け止め、ラグビーを愛し、プレーしています。放課後、そんな部員たちの姿を見に行くことはとても楽しいです。OBの方々も時間を割いてきてくださいます。父母会の方々もとても協力的です。それに答えるためにも、部員を一杯支援していきたいと思っています。至らない点も多いと思いますが、OB会の皆様には今後ともご支援ご協力のほどよろしくお願いいたします。



○ 平成20年 関東大会予選以降の戦績

第56回関東高校ラグビー大会 茨城県予選

1回戦	シード	
2回戦	日立一	65－0 合同C（江戸川取手、取手一、並木）
準々決勝	日立一	31－38 東洋大牛久
5位決定戦	日立一	38－27 合同A（磯原、水戸一）

今大会は、関東大会出場を目標に掲げて臨むこととなった。県新人大会の結果を受けて、第5シードで2回戦（対合同C）から出場した。2回戦を順当に勝ち抜き、準々決勝（対 東洋大牛久）で火花を散らす試合となった。前半13分で連続攻撃（球出しのタイミングは完璧！）より3本のトライを連取。19－0とし、圧倒的有利な試合展開になったが、前半終了までに3本のトライを返され19－19で後半へ。仕掛けのスピードが上がったが、スタミナがなく受けに回り19－38。終了間際に取り返し31－38というスコアだった。試合が終われば、「たら、れば」という思いは数知れず。悔いの残る内容であった。ただ、上位シード校に対して力を出すことができるようになり、今後の上位校との対戦が楽しみである。

平成20年度県民総体（兼）第63回国体ラグビー茨城県大会

【Bブロック】

1回戦	日立一	47－10 水城
決勝	日立一	0－15 つくば秀英

ブロック優勝を目指した大会であったが、上位シード校のつくば秀英戦で持ち味を出し切れず敗れたのが残念であった。昨年度よりは点差を見れば十分詰めることができ、成長の跡が見られるが勝ちに行けた試合ただけに満足はできなかった。やはり、公式戦で上位校にチャレンジする試合を1試合でも多くやるのが、チーム力アップには欠かせないと思われる。

この結果を受けて、秋の全国大会県予選は、第6シードとして大会に臨むこととなった。

平成20年度全国高校総体（兼）第88回全国高校ラグビー大会県予選

3回戦 日立一 29-25 勝田 (※1・2回戦はシード)

準々決勝 日立一 12-83 東洋大牛久 【第5位】

今大会は、第6シードとして3回戦から出場となりました。シード校として「誇りを持って戦うこと」、それは上位シード校相手にチャレンジすることであり、それを目標に臨みました。初戦の勝田高校戦は、久しぶりの公式戦ということもあり、試合序盤での失点から終始追い上げるゲーム展開となりました。前半はセットプレーでの不用意な反則が多く、自分達でゲームを壊してしまいました。しかし、自分たちの力を信じて、慌てずに普段通りにプレーができるようになると、後半は相手のDFを崩して攻めることができました。結果的には接戦になりましたが、最後まであきらめず攻め続けること、ゲーム序盤より常にリードを許すゲームながら逆転する展開に持ち込んだことなど、まだまだ甘い試合運びながら、良い経験ができました。



準々決勝は、春シーズンに逆転負けを喫した東洋大牛久との対戦でした。待ちに待った試合であったはずなのに…。DF網の崩壊（1対1、ユニットすべての局面で）で、ゲームを作ることすらできず完敗。歯がゆい思いでした。ただ、3年生として今大会まで残り、未熟な下級生たちを体を張って引っ張り、叱咤激励し続けた NO. 8 長谷川、右PR小林（健）の存在感は、このようなゲームの中でも一層輝いていました。再三にわたりビッグゲインした突進、苦勞を惜しまないサポートラン、体を張ったタックルと持ち味を存分に発揮してくれました。この姿を下級生たちは忘れてはならないと思います。相手と戦う前に、自分との戦いに勝たなければ試合の挑戦権はありません。これは3年生だけでなく部員全員に言えることです。チャレンジャーとして、一からやり直します。

(監督：橋本晃輝)

○ 2008年の菅平合宿に同行して

OB会事務局長 木下 俊雄

この夏、13年振りで菅平に上がり、久し振りにラグビー三昧の日々を過ごしてきました。

8日（金）から参加する吉田会長・尾又副会長・近藤幹事長に先駆け、3年生の父母の中野さんの車に便乗し、8月7日（木）の早朝に日立市を出発。高速道路を利用したため、4時間足らずで到着することができました。

初日はOB照沼康彦さんと合流。照沼さんは早稲田大学のコーチングスタッフを務める傍ら、オーストラリアに渡り、世界トップレベルの最新のコーチング理論を身につけています。最初は脇で聞いていても、意図するところが掴めず、理解できない部分が多々ありましたが、一旦糸口がつかめれば「目からウロコ」の世界、正に先進理論でした。

その理論を現場へ落とし込むためには、まず指導する側が理解を深めること、そして高校生にとってもケース・バイ・ケースの使い分けが必要になり、一朝一夕には消化できない部分もありますが、日立一高が目指すひとつの方向性として、貴重なサジェスション（示唆）を受けることができたことと思います。

8日（金）には、早朝からOB会幹部が駆けつけ、OB益子俊志さんが合流し、また父母の会からも多数の応援が参加して、顔ぶれは更に賑やかになりました。

9日（土）には日立一高が生んだ元日本代表の吉野俊郎さんが参加し、指導の合間には応援に来た父母の方たちに、自らの高校時代を含めた貴重な体験談を聞かせてくれました。（これは、ぜひ現役部員にも聞かせたかった!!）

日立一高の宿舎「向井館」と、われわれの宿舎「ロッジ松の実」とは離れているため、夜は部員とは完全に別行動になりますが、その分、時間を気にすることなく（宿のご好意にも甘えつつ）毎晩夜が更けるまでラグビー談議に花が咲き、「菅平から降りたくない、この至福の時間が永遠に続いて欲しい。」と、心の底から願った4日間でした。

また、金澤勉（平成4年度卒）、鈴木祐輔（平成7年度卒）、鈴木克典（平成10年度卒、横浜高校監督）など若手OBも、多忙な中、指導・激励に駆けつけてくれました。本当にありがとうございました。

ところで、試合結果は以下のとおりです。

8月6日（水）	日立一高	0-39	延岡星雲高	（25分1本）
	日立一高	19-0	千葉高	（15分1本）
7日（木）	日立一高	7 0-38	白石工業高	（25分2本）
		7-28		
8日（金）	日立一高	26 7-12	19 高崎高	（20分2本）
		19-7		
9日（土）	日立一高A	0-19	山城高 A	（25分1本）
	日立一高B	0-0	山城高 B	（10分1本）
	日立一高	19-0	太田一高	（25分1本）

10日(日) 日立一高 48 12-14 14 仙台高 (15分2本)
36-0

菅平デビューの1年生を含めて、現役も頑張りましたが、結果は満足のいくものではありません。スコアだけを見れば互角の試合が多いように見えますが、技術・体力・経験ともに他校の3年生主体のチームとは雲泥の差があります。

逆に、春までの3年生チームを連れてくる事ができたから、どこと試合を組んでも、それなりのゲームができたのではないのでしょうか。・・・来年へ向けての課題です。

それと、どうしても菅平ではゲーム中心になってしまうので、地元で(できれば本校合宿で)しっかり走り込んでから菅平に上がることが必要と、強く感じました。



○ 会瀬青少年の家でのミニ合宿

本田 浩一(平成2年度・第43回卒)

10月10日(金)～12日(日)に、全国大会県予選に向けて、会瀬青少年の家でミニ合宿を行いました。

練習は浜の宮Gで行い、OB数名が、一緒にグラウンドを走り回り、熱い指導を行いました。1、2年生主体のチームなこともあり、基本的なことができていなかったり、アタックディフェンスをやっても、2本目が1本目の練習相手になれていないというのが実感でした。一時のような部員不足は解消された感がありますが、もう少し、若手のOBの方々の協力があると、実戦に近いレベルの高い練習ができるのかなと思います。



2日目のバーベキューでは、父兄の方々のご協力により段取りよく進行し、現役生、父兄、OBが皆、今の思いをぶつけあい、より懇親を深められたと思います。特に、父兄の方々の熱心さには驚かされました。もしかしたら、プレーをしている当の本人たちよりも、熱いのではと感じました。その後の懇親会の2次会では、何十年も前のことを、つい最近のことのように話すOBの方々を見て、自分の居場所もここにあると感じられたのが、とてもうれしく思いました。

この合宿で、現役生が何かを感じ取って、来年は全員が最後の大会まで残ってプレーをして、さらにいい結果が残せるようになれば、OB会もどんどん活性化すると思います。そして、我々のように、死ぬまで日立一高ラグビー部を愛する気持ちを持っていほしいです。

最後に、強豪日立一高ラグビー部の伝統が復活するように、OBの皆様の益々のご協力をお願いいたします。

○ 第4回OB会会長杯ゴルフコンペのご報告

11月8日(土)、五浦庭園カントリークラブで、ゲストに滑川先生、長谷川父母の会会長、広瀬嬢(益子氏職場の同僚)を迎え、総勢26人の多くの方が参加して行われました。秋のゴルフシーズン到来でゴルフ場が混んでおり、スタート時間が思ったより遅くなってしまい、終わりが辛うじて日没を免れたというアクシデントがありましたが、無事終了することができました。

成績は、優勝が石井博美氏、バスグロは村山功氏(73)でした。

開催に際し、OB会、鈴木正典氏、大友敏勝氏、新保栄氏、松永啓氏、後藤秀次郎氏、鈴木滋氏、岡部英明氏、五来敬一氏、鈴木俊広氏、長谷川正規氏(父母会会長)からご寄付を頂き、賞品に使用させていただきました。大変ありがとうございました。

なお、第1回の参加者は27人、2回は17人、3回は18人でしたが、今回は26人と多くなり、盛況に出来ました。

今回もゴルフ終了後、13人(ゴルフ不参加者5人含む)が平潟の民宿“鈴せい”(S43卒・OB会員)に泊まり、酒盛りをし、大いに旧懇を温めました。今年も、朝まで飲んで騒いだ超OBの元気な酒豪がいました。

来年も第5回の開催を計画しておりますので、多数のご参加とご寄付を宜しくお願いいたします。

(ゴルフコンペ事務局 近藤 雅年)



○ OB通信

このコーナーは、20～30歳代・40～50歳代・60歳以上の各世代のOBの方々に、お一人ずつ昔の思い出や近況等のご紹介をいただいています。

前回から名称を「OB通信」に改めてお届けしています。大内二郎さん、赤津幸司さん、柴田和則さん、お忙しい中ありがとうございました。

「回想」 大内 二郎（昭和27年度・第5回卒）

昭和25年4月、日立一高に入学

当時校舎は「白亜の殿堂」と云われておりましたが、教室は戦争の傷跡が生々しく残る大変なものでした。

グラウンドは粘土質の赤土で、日照りが続けば固く埃が立ち、冬は霜解けでぬかるみ、そのような中で、ひたすらラグビーに打ち込んだことが懐かしく思い出されます。

チームメイトだった北茨城市平潟の伊藤君、日立市神峰町の内山君、日立市西成沢町の今野君、高萩市松岡の小山君が、昨年の秋から今年の春にかけて、病気でこの世を去りました。淋しい限りです。

私は、幸い健康に恵まれ、数多い友人たちと常陸不惑倶楽部でラグビーを楽しませていただいております。

現在こうしていただけるのも、高校時代、苦しい練習に耐え、やり通したことが支えとなり、今の喜びがあるのだと思います。

ラグビーに感謝です！！

（事務局から：大内先輩には、30年以上に亘って、合宿時のバーベキューや正月の「蹴り初め」の際には物心両面で大変お世話になっています。これからもお元気でラグビー人生を謳歌していただきたいと思います。）



「全日本社会人選手権大会の思い出」 赤津 幸司（昭和35年度・第13回卒）

最初に日立一校ラグビー部の活動に関しては、練習・試合はおろかOB総会にも出席せず大変申し訳なくお詫び申し上げます。

今回のOB会報への寄稿依頼を受けて、何を書こうかと思いました。

寄稿依頼書の中に現役時代の思い出等とありましたが、高校、大学、社会人と10数年に亘りプレイヤーとして過ごしましたが、この間印象に残っていることは多々ありますが、高校時代のことは50年近い前のことであり、正直申し上げてほんの少ししか記憶に有りません。

従って、この印象に残っている一つを記させていただきます。

私は、昭和40年3月に学校卒業後、某自動車メーカーに就職しました。

当時の社会人ラグビーの日本選手権（第1回は昭和39年（1964年）で、それまではNHK杯争奪戦だったとのこと）は、全国の地区から予選を勝抜いたチームで、花園ラグビー場で1月2日から開催されていました。

私も、入社1年目でしたが、関東地方代表の出場権を掛けて横河電気と対戦し、僅差で勝利し、選手権大会への出場権を得ました。（この試合でタックルに行き肋骨にひびが入ったのを憶えています）

さて、選手権大会当日、対戦相手は、当時優勝候補筆頭の八幡製鉄であり、開幕第1戦目でした。1月2日の生駒風の吹く中、開会式が行われたが、我がチームは部員数も少なく全員参加、相手の主力選手は控え室で暖を取っていました。

体の芯まで冷えてしまったことも記憶にあります。試合前の練習でも体が温まる様な状態ではありませんでした。

八幡製鉄は、後にプロレスラーに転じた草津選手他、そうそうたるメンバーを揃えていました。我がチームも有名選手が揃っており、戦力的には決して遜色はなかったと思いますが、試合の結果は6トライを許し、30：0の完敗でした。（当時はトライ3点ゴール2点、P・G3点）試合前の状況の差がこの大差を生んだと思いました。

その後、すぐ旅館に戻り、帰りの電車賃を渡され、流れ解散となりました。

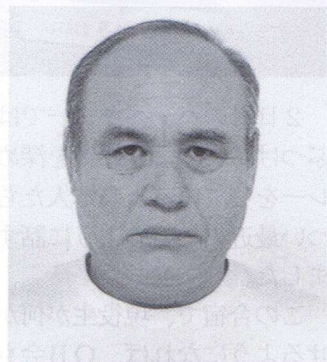
1月2日のお昼頃でした。その後は大会に出場するチャンスを物にすることも出来ず、私のプレイヤーとしての幕を閉じました。いろいろな意味で私の1番印象に残っている出来事です。

その後は、海外を含めた関係会社、子会社への出向が続き、大学、会社のラグビーとは接触がほとんど無くなりました。40年の会社勤めの内、半分の20年近い年月が出向と言う形でした。

3年前に退職し、それまで忙しかった事もあり、しばらくは毎日が日曜日でした。

最近、会社OB会、大学ラグビー部の幹事に任ぜられ、出歩く機会が増えています。

聞き及びますと、日立一校ラグビー部は部員数も増え、戦力的にも充実してきているとの事、是非、都合をつけて観戦したいと思っていますのでよろしくお願いします。



「異国の地で・・・」 柴田 和則（昭和57年度・第37回卒）

仕事の関係で2001年5月から2003年12月までの2年7ヶ月間、家族と共に 王室の国、微笑の国、タイ国に赴任しました。

タイは熱帯に属し、一年中温暖な気候が続きますが、日中は40度を越える日もあって、そんな日は炎天下を歩くことさえままなりません。

言語は母国語のタイ語、第二外国語は英語である為、当初不安がありましたが、日本人居住区内には日本語が通じる病院、日本の食材が揃うスーパー、日本人学校・幼稚園もあり、生活する上で問題はありませんでした。

日本の情報もNHK衛星が見られましたし、時差(日本より2時間遅い)により、その日の朝刊も朝のうちに読む事が出来ました。

生活を始めて3ヶ月が過ぎた頃、新聞の折込紙で「日本人会ラグビー部員募集！」の記事を見付け、早速コンタクトを取り練習に参加しました。

この部は、大分舞鶴高校ラグビー部の創設者で初代キャプテンの和氣氏がタイで事業を起こし、その後ラグビー部を創設、40年以上の歴史を持つクラブチームです。

練習は毎週日曜日で暑さの為、開始は午後3時から。それでもちょっと動いただけで滝のような汗が流れ出します。たまに天然シャワー(スコール)の恩恵を授かりますが毎回夏合宿のようです。2時間程度練習をして、その後は有志で集まり家族も一緒に夕食を摂ったりしましたが、この時のビールが最高！ これがあるから練習していたとも言えますが・・・ また、国内外の大会に泊り掛けで家族共々参加したり、週末にはホームパーティーをしたりと、常に家族と仲間と一緒に過ごせた事は行動範囲が制限されてしまう異国の地で大きな支えとなりました。

帰国をしてからも当時の仲間や家族との交友は続いており、このような素晴らしい出会いもラグビーがあったからこそなのです。

私を育ててくれたラグビー、そしてその原点である日立一高ラグビー部に少しでも恩返しが出来れば、という気持ちで微力ながら今は練習の手伝いをさせてもらっています。

最後に「ラグビーは、少年を最も早く大人に変貌させ、そして大人に永遠に少年の魂を抱かせる。私がラグビーから学んだことは、人を制圧することではなく人と共に生きることだ。だからラグビーは素晴らしい」(元フランス代表キャプテン、ジャン・ピエール・リブ)



○ 訃 報

昭和24年度・第2回卒の田山次郎氏にありましては、本年9月に77歳で他界されました。

ここに謹んでお悔やみ申し上げます。

氏は日立一高ラグビー部OB会の、初代副会長を永年つとめました。ご冥福をお祈り申し上げます。

(注：OB会員の訃報は、OB会特別会員及びOB会役員歴任者に限らせていただきます。)

○ 編集後記

早いもので、今年も残すところあと僅かとなりました。

今シーズンは、すべての大会でベスト8に進出することができ、実質的に私立5校(茗溪・清真・東洋大牛久・常総・つくば秀英)に次ぐ県内6位の座を確立することができました。しかし、全国大会予選を前に3年生の大半が引退してしまい、準々決勝には進出したものの、上位私立校の一角を崩すことはできませんでした。

日立一高ラグビー部の更なる飛躍を願って、今後とも、現役やOBに関する情報をお届けしてまいりますので、ご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

(編集担当幹事：松永 啓)

日立一高ラグビー部OB会報 第10号

発行責任者：幹事長 近藤 雅年(昭和32年度 第10回卒)

編 集 者：幹 事 松永 啓(昭和40年度 第18回卒)

笠井 知洋(昭和59年度 第37回卒)

本田 浩一(平成2年度 第43回卒)

事 務 局：〒317-0065 日立市助川町3-7-4 木下俊雄

柴田 和則(昭和57年度 第35回卒)

菊池 敬(昭和61年度 第39回卒)

金澤 勉(平成4年度 第45回卒)

【電話】0294-21-4890(FAX同じ)

○「誌上広告」について

OB会の財政安定化をはかるため、今号からOB会員等が経営する会社等の広告を掲載することにいたしました。

広告代は年2回発行で1口1万円以上ということで、37人のOB会員にお願いしたところ、今回は14人の応募がありました。(山形暁志郎氏(昭和33年度卒)・金成和彦氏(昭和49年度卒)からは、広告掲載無用ということで、ご寄付をいただいています。)

ご協力をいただいた皆様には、厚くお礼申し上げます。なお、ご本人が議員の方については、寄付行為が禁止されていますので、OB会員ではなく会社等の代表者氏名になっていることを申し添えます。(以下、順不同)

茨城クリーン有限会社

代表取締役 夏井 一郎

(昭和37年度 第15回卒)

〒310-0804 水戸市白梅3丁目10番5号

電話: 029-231-7741

株式会社 岡部工務店

代表取締役会長 岡部 英男

(茨城県ラグビーフットボール協会会長)

〒316-0003 日立市多賀町2丁目10番7号

電話: 0294-36-1681

尾又運送株式会社

代表取締役 尾又 篤(昭和36年度卒)

取締役 尾又 彰彦(平成2年度卒)

〒316-0035 日立市国分町3丁目11番7号

電話: 0294-36-2856

株式会社 カントウスプレー

専務取締役 本田 浩一

(平成2年度 第43回卒)

〒317-0054 日立市本宮町3丁目32番12号

電話: 0294-22-0807

有限会社 ゴー企画

取締役 桧村 じゅん子

(昭和46年度 第24回卒)

〒319-1304 日立市十王町友部2166番地3

電話: 0294-39-6709

秋光電気工事株式会社

代表取締役 秋山 啓市

(昭和49年度 第27回卒)

〒316-0003 日立市多賀町1丁目20番22号

電話: 0294-36-1987

鈴菊商店

代表 鈴木 真治

(平成2年度 第43回卒)

〒319-1701 北茨城市平潟町293番地

電話: 0293-46-5110

ブリヂストンタイヤセンター茨城北株式会社

代表取締役 松永 啓

(昭和40年度 第18回卒)

〒316-0015 日立市金沢町1丁目7番12号

電話: 0294-36-3067

肉の登利要 日立店

店主 古口 利博

(昭和39年度 第17回卒)

〒317-0073 日立市幸町2丁目8番14号

電話: 0294-21-0971

村山商店

代表 村山 功

(昭和42年度 第20回卒)

〒319-1702 北茨城市大津町2731番地1

電話: 0293-46-0172

日立一高ラグビー部OB会 役員会

会長 吉田 尚一

(昭和31年度 第9回卒)

日立一高ラグビー部 父母の会

会長 長谷川 昌規

(ほか 保護者一同)

私たちは、日立一高ラグビー部を応援しています!